

第56回 全国子ども会育成中央会議・研究大会 参加報告書

東大阪市子ども会育成連絡協議会  
副会長 久森 敬次さん

期日 : 令和5年10月27日(金)～29日(日)

会場 : 京王プラザホテル札幌、北海道立道民活動センターかでの2・7

感想 : ①初日の記念講演は、毎回次年度の市子連活動のよき指針になります。

※過去、九州大会ではジュニアリーダー育成の必要性講演から、東大阪でも活動の中心にしたことがあったり、子どものSNSとの付き合い方の講演では、市子連の理事会で保護者や育成者に情報提供したり、長野の大会では、年間を通して自然との関わり方として農作物づくりと子ども会活動などの事例紹介が活動の切口としてヒントになりました。

②今回で6回目の参加になりますが、毎回同じボランティア活動の同志として交流することは、大いに個人の活動継続への刺激となります。

※分科会でのテーマは、毎回類似したのですが、参加メンバーの環境や組織の持つ課題が違うので、答えを求めるといよりヒントに巡り合う感覚がいいです。

③東大阪市子連からは、村田会長と宮田理事&私の三人で参加したため、毎夜少量の酒とつまみで1～2時間の雑談が市子連メンバー時間の良い刺激となりました。

※複数参加のメリットだと考えられます。他の市子連さんにも検討してもらいたいですね。会長のみ参加の慰労会的な場で終わらないように。

④2泊3日の中で、スケジュールはタイトですが、府子連の参加メンバーとの交流会を忘れ導入して頂きたいものです。

※儀礼的な挨拶だけで終わるのではなく、お互いの課題や問題意識の共有やヒントを見出す場として、ざくばらんな情報交換の場を府子連メンバーで持って頂きたいものです。

⑤全子連の分科会運営で気になるのは、最後の結果報告があっさり短い時間でまとめられていることです。9個の分科会報告を30分ほどで終わるのはもったいないです。他の分科会にも出席したいテーマがいろいろあったので。

※毎回、運営方法が同じなので、次回はもう少し工夫をお願いしたいと思います。例えば、結果報告を全子連HPでもう少し詳細に流すとか、冊子にして欲しい人に配布するとか。

⑥全子連にしる、府子連にしる、行事日程は年度初めか、年度終わりに予定として早く知らせていただきたいものです。

※末端子ども会、市子連、ブロック子連、府子連、近子連、全子連と末端組織から見ると上位団体の行事日程が、後出しジャンケンで勝つように負担を強いられることがある為。

以上